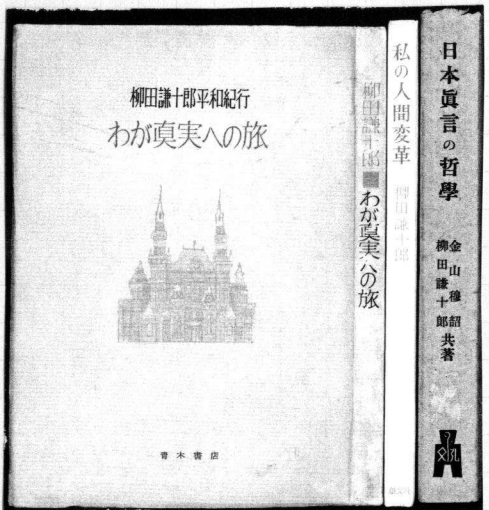


柳田謙十郎 （1893-1966） 哲學者、文學博士。明治二十六年十一月（二十二年）神奈川縣生れ、昭和五十八年一月十六日没（八九三—一九六三）。大正十五年京都帝國大學文學部哲學科卒。弘前高等學校教授、臺北帝大助教、授、浦和高等學校教授等歴任。由田哲學に傾倒し、所謂「京都學派」の一員と、戰後唯物論に轉じた。『柳田謙十郎著作集』全八巻（昭和四十二—四十九年刊）がある。

著書 『辯證法的世界の倫理』（昭和十四年一月）（二十四台岩波書店）、『歴史の形と成の倫理』（昭和十八年五月十日近藤書店）、『日本道徳の哲學』（金山藤郎共著、昭和十八年七月十日弘文堂書房）、柳田陽一續編『學道記』（編、昭和十八年十月一日私家版）、『愛國の理想と民生主義』（合著、昭和二十二年八月二十日文理書院）、『西田幾多郎（その人と學）』（合著、昭和二十三年十月二十日大東出版社）、『マルクシズムの對決するもの—批判と反批判』（合著・河野來吉編、昭和二十四年八月十五日労働文化社）、『愛いふやみ死をおそれるもの（今なき生きぬく心）』（合著・理論編集部編、昭和二十五年十一月十日理論社）、『わが思想の滄歴』（昭和二十六年十一月十五日創文社）、『わが眞実への旅』（昭和二十九年十一月一日青木書店）、『人生の道標—若い友への手紙』（合著・「人生手帖」編集部編、昭和二十四年一月十日文理書院）、『唯物論十年—統一の思想の滄歴』（昭和二十五年一月五日創文



社)、 『私の人間変革』 (昭和四十二年五月二十一日創文社)、 『柳田謙一郎一人、思想、行動』 (『柳田謙一郎一人、思想、行動』刊行委員会云編、昭和五十八年十一月一日学芸の友社) 等。